

常照

第 823 号

法事を勤めるといふこと

私たちは、人が亡くなると葬儀を執り行い、そしてその後、月命日のお参りや、ご法事をお勤めします。そのご法事は、お墓の前ではなく、お内仏（お家の仏壇）の前で行います。それはなぜでしょうか。

「魂」と「魄」

人間の魂（たましい）をあらわす言葉には、「魂（こん）」と「魄（は

く）」という字の二つがあります。どちらも「たましい」と読みますが、「魂」という字は、人間の生存を司る“精神的”なものを、また「魄」という字は、人間の生存を司る“肉体的”なものをあらわします。

よく、「大地に帰りました」という言葉を聞きますが、土に帰るのは「魄」の方です。大地に帰った魄を祀（まつ）るところがお墓や納骨壇です。

しかし、人間の精神的なものを司る「魂」の方は、亡くなっても大地には帰りません。真宗では、浄土に還（かえ）ると言います。その浄土をあらわしたのがお内仏であり、お寺でいえば御本堂のお内陣です。まずは、このことを区別していただきたいと思います。

お墓や納骨壇というのは、亡くなつた人との思い出を偲ぶところです。ですから知らない方のお墓に参つても思い出すことは何もありません。亡くなつたお父さんはいい人だつた、お母さんは優しくかつた、思い出を尋ねるところがお墓でしょう。お墓はお参りをする方が主なのです。そして、そのことをとおして仏様の教えをいただいていくのです。

それに対して御本堂や、お内仏は、こちらから思い出をたぐるところではありません。亡くなつた方からの限りない呼びかけに遇うところですよ。

ご法事を、お墓の前ではなく、お内仏や御本堂でお勤めするといふことは、亡くなつた人とあらためて出遇い直すといふことです。

亡くなつた方がどういふ願いで生きておられたのか、また自分にもんな願いをかけていたのか、そういうことに出遇うところでしょう。ですから、本堂や、お内仏の前でご法事勤めるといふことは、こちらから亡くなつた方に「どうぞ静かにお眠りください」といふ、そういう行事ではないのです。また、世間では、「亡くなつた人には、お経が一番のご馳走だ」などと言う方がおられますが、お経とは仏様の教えが書かれたものです。亡くなつた人は迷いの根がなくなり、仏様のもとに還つたのですから、むしろお経を聞かなくてはならないのは、生きている私たちなのです。南無阿弥陀仏もそうです。呪文でもなければ、亡き方に向けて称えるのでもなく、仏様が私たち

に「助かってください」と呼びかけているのです。その呼びかけに応答するのがお念仏でしょう。つまり、ご法事をお内仏の前で勤めるのは、亡き人からの願いに遇い、また仏様の教えやその呼びかけに出遇う、大切なご縁なのです。

亡き人からの願い

亡くなつた親は、子どもや後の人びとにどのようなことを願っているのでしょうか。それは一言でいえば、「幸せになつてほしい」ということでしょう。

ここで、仏教でいう「幸せ」というのはどういうことか、お考えいただきたいと思います。それは、いい暮らしをしてほしいということではないのでしょうか。人が生き

るということは、苦しいことや悲しいことの中で悩むということですね。それが全部なくなつて人が生きるといふことはありません。ですから、亡き人が願っていることは、苦しまないようになつてほしいということではなく、そういう現実から学びとる心を開いてほしいということですね。

生きるということとは、そんなに楽ではありません。私の人生も、楽しいことばかりではありませんでした。もちろん楽しいこともありました。辛いことにも多く遭いました。その中をどうやって生きるかということですね。

私はこのことを思うと、亡くなつたお父さんやお母さん、ご先祖が私たちに願っているのは、辛いか悲しいとか、苦しいことから

逃げないでほしいということだと思ふのです。どういう状況にあつても幸せを感じずるような生き方をしてほしい。幸せとは感じられない状況の中を生きねばならない場合が多いのですが、しかし、そういう中で幸せを感じられるような人生を送ってほしい。それが、亡くなった方たちが私たちにかけている願ひではないでしょうか。どうぞ一緒に一念仏申しませう。どうか南無阿弥陀仏を称えましょう。

合掌



八月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期 八月七日(日)～十一日(木)

奈良教区 広瀬組 善巧寺

講師 澄川 緑 乃 師

○後期 八月十三日(土)～十六日(火)

安芸教区 沼田組 法隆寺

講師 森 岡 恵 隆 師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～

午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。
 どうぞお誘い合わせ頂き、ご聴聞に来院ください。
 席の間隔を保ち、換気実施の上、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号

本願寺小樽別院

電話 一一一〇七四四番
 FAX (一三三四) 一一九一四〇八〇番
 テレホン法話 一一七一六一六番